全教科×小・中・高 早見表

次期学習指導要領（審議まとめ 2026年10月5日）の各教科等の要点。告示前の方向性です。

教科等	小学校	中学校	高校
国語 話や文章の「機能」で3領域をつなぐ	話す・聞く、書く、読むを「話や文章の機能」でつなぐ。手書きの書写を引き続き重視	3領域を「話や文章の機能」でつなぐ。知識は「運用しながら」「教養として」深める2面に	必履修は現代の国語Ⅰ・言語文化Ⅰ。選択は現代の国語Ⅱ・言語文化Ⅱと発展4科目に再編 科目：選択4科目を標準2科目＋発展4科目に再編
社会・地理歴史・公民 分野横断の単元と情報の真偽を確かめる力	4年「県内の特色ある地域」は3地域→2地域に精選。情報の正しさを確かめる技能を加える	3分野をつなぐ分野横断の単元A・Bを設け、Cをまとめ単元に位置付け直す。地域調査は単元Bで	科目名は現行どおり。地理総合に導入単元を新設、「公共」の事柄・課題は13→10に精選 科目：科目名・単位数は現行どおり
算数・数学 6分野で整理し、証明と批判的思考を重視	割合・比・分数の内容と順序を見直し。証明につながる「論理的に説明する活動」を充実	数学の全体像や社会とのつながりを学ぶ「数学ガイダンス（仮称）」を新設する案。証明も充実	数学Ⅰに「社会を読み解く数学」等を加え最大8新単位程度に。数A・B・Cは1科目に統合する案 科目：数A・B・Cを1科目に統合。数Ⅰ増・数Ⅱ減
理科 4分野で統一、「科学ガイダンス」新設	分野をまたぐ課題を学ぶ「理科と日常生活」を新設。内容を物理・化学・生物・地学の4分野で整理	「科学とは何か」や研究倫理を学ぶ「科学ガイダンス（仮称）」を新設する案	「科学と人間生活（8新単位）」1科目で必履修を満たす道を新設。各基礎科目に科学ガイダンス 科目：「科学と人間生活」を4新単位と8新単位の2形に
理数 文理横断のテーマで全校が関わる探究へ	—	—	理数探究基礎・理数探究は現行どおり。文理横断（STEAM）の課題も充実し、全校で指導 科目：科目名・単位数は現行どおり
生活 体で感じ、表して深める学びへ	目標を「身体性を伴う体験と多様な表現活動」に。動物は借りて飼うのも学校飼育と同等	—	— 科目：—
音楽・図画工作・美術・芸術 発想から表現までを一続きの学びに	音楽は「歌唱」と「器楽」を「歌唱・器楽」に統合。図工は発想から表すまでを思考・判断・表現に	美術は発想から工夫して表すまでを「思考・判断・表現」に。鑑賞にも「技能」を示す	Ⅰの科目で芸術の全体像や学ぶ意味を考える機会を設ける。書道は字形等を〔共通事項〕に 科目：科目名・単位数は現行どおり

教科等	小学校	中学校	高校
家庭 中学で独立教科に、領域は5つに再編	領域を「家族・家庭と生涯発達」「食生活」など5つに再編。「住まいの主な働き」は高校へ	技術・家庭科から「家庭科」が独立した教科に。金銭管理と消費者の権利を新B領域で統合	ホームプロジェクト等を各領域の「生活の課題と実践」に。家庭総合に新F領域を追加 科目：科目名・単位数は現行どおり（家庭総合にF領域）
情報・技術／情報 中学に「情報・技術科」、小は総合で情報	教科は作らず総合に「情報の領域」を新設。3・4年は最大30、5・6年は最大35コマ程度	技術分野を新教科「情報・技術科（仮称）」に。1・2年は最大70、3年は最大35コマ程度	情報Ⅰ・Ⅱの構成は維持。AI・データサイエンスを加え、両科目の最後にPBL（課題解決学習） 科目：科目名・単位数は現行どおり
体育・保健体育 「動き」と多様な楽しみ方を軸に	1〜4年は「遊び」の要素を取り入れ、運動名でなく身に付けたい「動き」を軸に示す	「体育理論」を「スポーツ理論」に改称。公正・協力などは「運動との関わり方」として学ぶ	専門教科「体育」を「スポーツ」に改称。保健は健康・安全の「概念」と「原則」を軸に 科目：共通教科は現行どおり。専門教科体育→スポーツ
外国語（英語） 英語は「コミュニケーション活動」中心へ	外国語活動と外国語科の形は維持。読む・書くの段階を細かく示し、語順の違いに気付かせる	文法事項は使用頻度の高いものに絞る。「社会的な話題」は「身近な社会的な話題」に	英語コミュニケーション→同（総合）、論理・表現→英語コミュニケーション（発信）に改称 科目：英コミュ→（総合）、論理・表現→（発信）に改称
道徳 1つの教材を複数時間でじっくり考える	1つの教材を翌週などにまたいで複数時間で扱う。「深める教材」は高学年8・中学年4が目安	複数時間での扱いと「深める教材」（13程度が目安）。教師が交代で学級を回る授業も可	道徳科はなし。在り方生き方の中核的な指導の場面に、公共・倫理・特活に加え総合を追加 科目：—
総合的な学習／探究の時間 小中も「総合的な探究の時間」に	名称が「総合的な探究の時間」に。「探究の領域」と新しい「情報の領域」の2領域で構成	名称が「総合的な探究の時間」に。修学旅行・職場体験は探究として成り立つ部分だけ代替可	名称は現行どおり。自分の在り方生き方に関わる「マイ探究」を自分で進められる姿を目指す 科目：名称・単位数は現行どおり
特別活動 「社会参画」から「社会創造」へ	クラブ活動は学年（主に4年以上）の縛りや実施時期を柔軟に。児童会は学校運営に意見を	生徒会（小は児童会）が校則など学校運営に意見を出す活動に。評価は個人内評価へ	ホームルーム活動（小中は学級活動）を「学級経営の要」に。キャリア・パスポート例示資料は廃止 科目：—
産業教育（専門高校） 全専門教科でAI・データと経営を	—	—	全専門教科でAI・データ活用と経営の学びを充実。課題研究は履修学年を示さない 科目：必要に応じ科目を統廃合。情報科にAI等の分野

出典：中央教育審議会 教育課程部会「次期学習指導要領等に向けた審議まとめ」（2026年10月5日）ほか文部科学省資料。告示前の方向性で、今後変わることがあります。｜原田英語.com 次期指導要領ナビ https://www.haradaeigo.com/jikigakushushido/（2026年11月4日 版）